

施工条件の適応範囲が広い取付管推進工法 ベビーモール工法

小川 輝夫

OGAWA Teruo

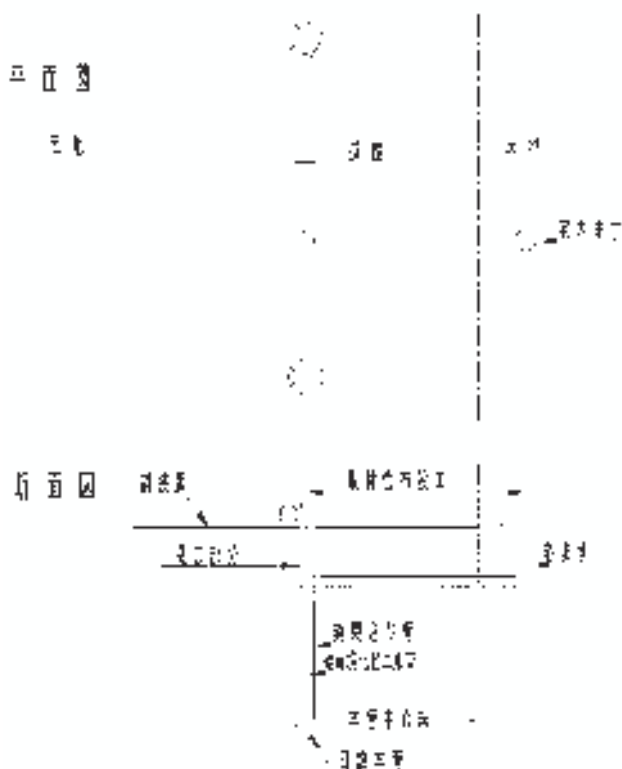
ベビーモール協会
技術委員



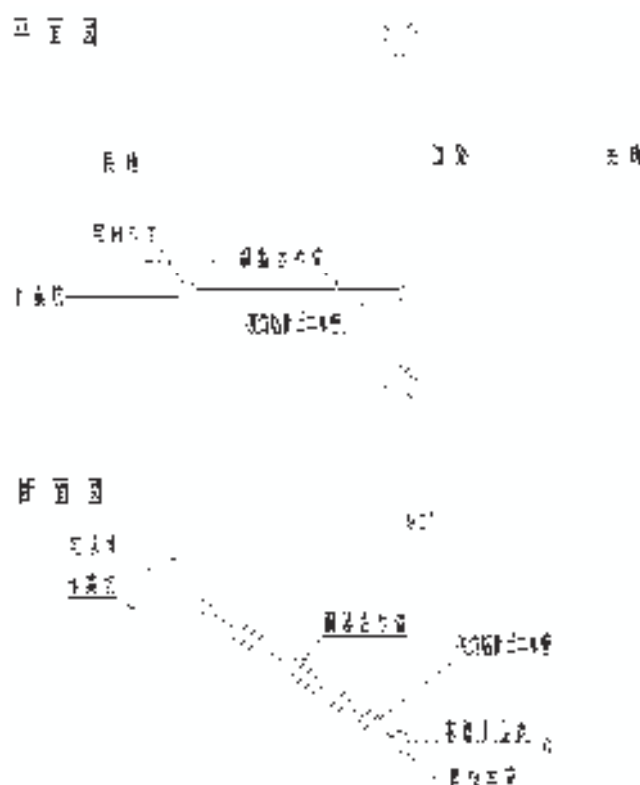
1. 工法の概要

取付管推進工法とは、小型の推進機をもちいて路上または、宅内の作業坑から対象本管まで鋼製さや管を推進し、鋼製さや管内の土砂を取除いた後、対象本管にコア抜き装置で穴をあけ、特殊支管を取り付けた硬質塩化ビニル管を接続する工法で、取付管は呼び径100～250までの硬質塩化ビニル管を基本とする。鋼製さや管については、取付管径+100mmを標準とするが、土質、推進距離等により標準より大きな鋼製さ

や管を使用することもある。推進機は、小型軽量で、宅内から取付管推進を施工する場合は、1.5m×1.5mの矩形または、φ1,500mmライナープレートの作業坑から発進できる。施工可能な推進距離は、10m前後となっているが、対象本管が大きければ30m程度までの実績がある。推進する方向は、宅内に作業坑を作るスペースがない場合、路上から垂直に対象本管に推進し、宅内まで開削で横引きする方法（図－1）と、宅地内に作業坑を作り対象本管に、斜めに推進する方法（図－2）がある。



図－1 垂直推進



図－2 斜め推進